

令和6年度 学校防災チャレンジプラン中間報告

R7.2.8 13:00～

被災地・ふるさと北上から

「いのちの尊さ」を発信しよう

石巻市立北上中学校



地域歴史・暮らしの調査について

11月2日石巻市総合防災訓練時に、
中学生が地域住民と小学生に向けて、
北上地区の聞き取り調査をした内容を発信



ねらい

北上地区は、東日本大震災で大きな被害を受け13年が経過し、中学生が震災を経験しない年代になった。

震災前の北上地区はどのような地域だったのか、地域の方々に調査し、石巻市の総合防災訓練の時に、地域に発信していくことで、北上中生がこれから取り組んでいくべきことを理解する。



実施計画について

①6月26日(水)5校時 開講式

河北新報社 防災・教育室 越中谷 郁子様より
調査方法やまとめの新聞作成について講義をして
いただいた

②10月24日(木)5・6校時 調査

③10月25日(金)5校時 まとめ作成

④10月29日(火)5・6校時 まとめ作成

⑤11月2日(土) 石巻市総合防災訓練

作成した新聞を地域の方々に向けて発表



新聞社の方から調査方法についてのレクチャー



調査方法

地域の方々に来校いただき、学年ごとに聞き取り調査を行う。

聞き取り調査の内容については

- ・北上地区の暮らし、衣・食・住について
 - ・東日本大震災のときに、どのようなことが起こったのか、その後について
 - ・今の北上中生(未来)に伝えたいこと
- の3つの点について重点的に調査をする。



調査にご協力いただいた方々

- ・にっこり団地の方々(7名)
※にっこり団地:震災後学校近くの高台に移転して
コミュニティを形成してきた団地
- ・北上中卒業生
- ・イシノマキファーム石牧様
- ・北上駐在所石川様





調査のまとめと発表について

11月2日の市の防災訓練での発表に向けて

聞き取った内容を新聞にまとめる

↓
訓練当日は、その新聞の内容を発表

↓
地域の方々へ配付



過去・現在・未来 in 北上

2年A班

震災火當時の北上

流された1日支所の様子

避難直後の様子

震災直後の相川小学校。校舎は倒壊してしまった。校庭には多くの人々が避難していた。多くの人々が、倒壊した校舎の瓦礫の中から、自分のものや大切な物を拾っていた。瓦礫の中には、子供たちの玩具や、大人たちの衣服や日用品が散らばっていた。人々の顔には、驚きや悲しみ、そして希望の光が宿っていた。この場面は、震災の深刻さと、人々の生き残りの意志を物語るものだった。

震災直後の北上中学校

北上の変化

今と北上(3点)

今と北上の変化

今と北上の変化。左側の写真は、震災直後の北上の中学校の校舎。倒壊した瓦礫の中から、人々が物を拾っている様子がうかがえる。右側の写真は、震災後10年後の北上の中学校。校舎は再建され、整った校庭で、児童たちが元気に遊んでいた。この変化は、震災からの復興と、人々の希望の象徴である。

発表について

場所: 北上支所 ホール

※石巻市総合防災訓練において、北上支所では、支所内の部屋を利用して、防災に関する様々な体験活動を実施していた。

中学校は、ホールをお借りして、地域の方々に向けて発表する計画を立て、地域の方々が自由に参観できるようにした。



発表について

司会・進行 2年生代表生徒

10:20 開会式

開会のあいさつ:校長先生

10:25 地域歴史・暮らし調査発表

各学年3グループが、発表時間5分 質問時間5分で、順序に発表

11:00 発表終了

地域の方々といっしょに、防災食を食べ、懇談する。

11:20 閉会式

講評:北上区長様より

感想発表 1年生生徒代表

作成した新聞は、冊子にして参観に来られた方々に配布した。





園・小学校との交流

毎月、小学生と園児との交流活動を実施

- ・毎月の担当校(園)を設定
- ・担当校(園)が企画して実施
(鬼ごっこ ドッヂビー クイズ等)







北上希望塾の取組

- ・希望する中学生が中心となり、学校内外のボランティア活動に取り組むシステムを確立している。
- ・校舎の周りや校庭の畠にど根性ひまわりの種をまき育てる取り組みをした。
- ・さらに、ひまわりで迷路をつくり、園児や児童が自由に遊べるように工夫した。（迷路の地図なども中学生が考案した）



園児がひまわり迷路で遊んだお礼に いただいたカード



園・小学校との交流の効果

- ・中学生が小学校低学年の児童や園児の目線になることを、自然に身に付ける。
- ・園と小学校との合同引き渡し訓練の際などに、よりスムーズな流れをつくることにつながる。
- ・中学生が有事の際に、小学生や園児を助けることにつなげることができる。



命の大切さについて

①命の大切さを学ぶ教室(全校生徒対象)

11月19日実施

交通事故の被害者支援の現状と
遺族の手記の紹介

②震災遺構での体験活動(1・2年生対象)

11月22日実施

震災機構(門脇小学校)に出向き、講話と施設の
見学

③3.11いのちの大切さを考える会の企画

3月11日(みやぎ鎮魂の日)に実施予定



命の大切さを学ぶ教室の様子



成果について

- ・北上地区は、こども園の幼児が15歳になるまでの長期計画でこどもを育てることがテーマである。そのテーマのもと、園と小学校との連携を図りながら、土台作りを構築できた。
- ・また、命の大切さについて、様々な取り組みを体験したことで、単なる防災への取組ではなく、より深い意識で防災に関わる姿が見られた。



成果について

- ・地域の方々との交流を図りながら、地域に発信できることで、より密な関係が構築でき、地域防災の大きな土台づくりにつながった。



今後の課題

- ① 様々な災害への対応と中学生の位置付け
- ② 高台への移転後の安全意識と風化



今後の課題

①様々な災害への対応と中学生の位置付け

- 自然災害
- 火災・原子力事故・交通安全・不審者
- 薬物乱用・情報モラル

大震災の被災地としての意識？



今後の課題

② 高台への移転後の安全意識と風化

- たとえ津波が来ても、川が氾濫しても大丈夫
- 震災から10年以上経過

経験していない中学生ができること

大震災の被災地としての意識？



今後の課題

①様々な災害への対応と中学生の位置付け

- 中学生として、自分の命を守ること
- 小さな子ども・お年寄り・避難困難者に対して
中学生ができること

大震災の被災地としての意識？



ご清聴
ありがとうございました

